

(第4回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年7月23日(月) 午後7時00分から午後9時00分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(12名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

岡本 将広 委員 川上 善秋 委員 田口 勝三 委員

田口 勝敏 委員 處 淳子 委員 野島 貴子 委員

野田ゆり子 委員 坂東 君良 委員 渡部 克彦 委員

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(5名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

戸田 聖子(西条市市民活動支援センター)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 宇佐 裕次 委員 黒河 幸子 委員 白石 澄子 委員

○ 会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) これまでの振り返り

(2) 広域コミュニティについて

(3) その他

4 閉 会

○ 議題審議

議題（１）これまでの振り返り

資料をもとに、これまでの振り返りを行った。

議題（２）広域コミュニティについて

（※３つのグループに分かれて協議を行った。協議の際に付箋に書き出した意見を分類の上、以下に掲載。）

『テーマ① 広域コミュニティの活動区域（エリア）は、どうあるべきか』

【単位自治会を区域とする】

- ・ 単一自治会→各班
- ・ 単位自治会の範囲
- ・ 隣接する自治会諸団体に構成する

【小学校区（公民館単位）を区域とする】

- ・ 小学校で小ミーティングして
- ・ 基本は小学校区単位 子ども 200 人（MAX 中学校区）
- ・ 小学校の単位なんだろうけど…
- ・ 神拝と田野を比較すると人数差がありすぎる
- ・ 気軽になら小学校区
- ・ 小学校単位→最小かな！
- ・ 丹原地区なら小学校区が良いと思う
- ・ 公民館単位
- ・ 学校と各種団体が連携しやすいエリア
- ・ まず小学校区の中で考える、そして各校区の自治会の中でまとめる

【中学校を区域とする】

- ・ 中学校区
- ・ 中学校区（お祭り）
- ・ 広域なら中学校区
- ・ 学校としてのプライド、中学校は高い

【地域の実情に応じた区域設定の必要性】

- ・ 一体感のあるエリアが校区によって違いがある
- ・ 同じ仕組みは無理がある
- ・ 地区に合ったエリア

『テーマ② 広域コミュニティの組織構成は、どうあるべきか』

【地域で活動する各種団体を構成する】

- ・ 自治会を中心とし、地域の各種団体を含む
- ・ 単位自治会
- ・ 自治会長
- ・ 婦人会
- ・ 消防団
- ・ 学校
- ・ 愛護班（班長）
- ・ PTA
- ・ 自治会と PTA の連携
- ・ 青年団
- ・ 公民館の協力委員会、PTA、愛護班、民生等色々な団体の長が入っている
- ・ 各種団体連絡協議会 30 団体
- ・ 〈丹原地区〉老人会、婦人会、PTA の融合 世代
- ・ 各種団体が一つになること
- ・ その地域にある団体すべて そこから一本釣り
- ・ 自治会＋PTA、おやじ部～女性層が少なくなるのでは
- ・ 校長先生、教頭先生

【若者が参加しやすい組織構成にする】

- ・ 自治会中心は 30～50 の若手男性 or 女性
- ・ 小学校 PTA メンバー
- ・ 中学校 PTA メンバー
- ・ ～20 代
- ・ 商工会→若い方がうまく機能している
- ・ 青年団は？（若年者の組織は…）いまどうなっているのか
- ・ 青年団を再グループ化してみても？
- ・ 若い人を上手くまきこむきっかけに
- ・ 年齢の幅をそれぞれ取って、その中の若い人達に頑張ってもらえるような組織作り
- ・ 子育て世代を必ず入れた組織作り

【中学生、高校生が参加できる組織体制にする】

- ・ 地域出身の高校生
- ・ 若手も老人会等の課題解決に参加
- ・ 中学校生徒会
- ・ 中学生生徒会メンバー←考え方をしっかりもっている、成長にもつながる
- ・ お堀プロジェクト←学生発送←別地区にいても高校生ならではの発想があるはず
- ・ 地域出身、高校生

【企業も広域コミュニティを構成する組織の1つ】

- ・ 企業
- ・ 地元企業
- ・ 商工会

【その他】

- ・ 話し合いがしっかりできる組織体制
- ・ 地域全体の意思決定ができる場
- ・ あて職ではなく、やる気のある人が継続して参加できる組織
- ・ 各種団体が一体となって連携
- ・ 横の連携、つながりを持てる組織
- ・ 各種団体が話し合いできる場
- ・ 横の連携体制がフラット
- ・ 老若男女
- ・ 男女比を同じくらいに
- ・ これまでのベースで考えがち、だが全く違う！
- ・ 「こうなりたい」から組織構成を考えるべき
- ・ どこに入れば良いか？→中学校の教員、小学校の教員、それぞれスタンスがちがいすぎるので！

『テーマ③ 広域コミュニティの拠点について』

【公民館】

- ・ 公民館
- ・ 公民館←名前がよくないかも←そのときだけ名前を変えても
- ・ 事務は公民館の職員がいい！
- ・ 各地区公民館又は集会所

【商工会・企業・商店】

- ・商工会館など
- ・商工会
- ・商工会議所など企業施設
- ・企業と連携
- ・1つのところにきめないでいろんな企業に協力要請
- ・スーパー（空き店舗など）
- ・ホテル
- ・居酒屋（複数用意）（ノンアルもありの）
- ・JA
- ・農業倉庫
- ・食事処
- ・すでにある建物で

【使用に制約が少ない場所】

- ・アルコール、飲食物持ち込み可の場所
- ・24時間（いつでも利用できる）

【その他】

- ・みんなで勉強できる場をつくる必要
- ・オープン和室、カフェ、スペース（公的）
- ・学校内

『テーマ④ 広域コミュニティの事務の担っていくために必要な人材は？また、どんな方が事務を担うべきか』

【地域のことが好きな人・地元出身者】

- ・地元地域の好きな人（有償スタッフ）
- ・想いがある人、地域に
- ・地域出身者
- ・地元 LOVE な方⇒想いがある人がどんどん巻き込んでいく
- ・地域が好きな人
- ・地域（地元）出身で地域づくりに熱心な人材

【公民館職員・地域担当職員（市職員）】

- ・常勤の地域担当職員

- ・地域づくりの担当職員
- ・公民館拠点と事務処理
- ・公民館職員⇒人員、人財、補完
- ・再任用の館長ではダメかも
- ・地域に根付いた市役所若手やり手職員
- ・地域づくりを担当する委員を公民館に配置
- ・公民館がつなぎ役、コーディネーター役を担う

【地域の実情に応じた人員配置】

- ・地域のビジョンや活動に応じた人材の配置
- ・規模により事務局のスタンスは違う！

【事務を複数で担う事務局体制の必要性】

- ・複数人雇う
- ・複数で、2人いる、だれでもできるように
- ・単独の事務局ではなく、公民館職員との連携
- ・メンバー内の有志+α

【地域コミュニティの事務を担うために必要な意識や能力など】

- ・固定観念にとらわれず柔軟な発想で考えられる人材
- ・地域での話し合いが円滑にできる雰囲気づくりができる人材
- ・地域のことを良く知っている人材
- ・地域の各種団体をサポートできる人材 会長（代表）
- ・公民館事業と連携が図れる人材
- ・コーディネートをする人と事務する人
- ・PC使える人
- ・話をきく力がある人
- ・フットワークの軽い人
- ・話す力量のある方
- ・地域を良くしたい熱意のある人材
- ・地域のニーズをとらえて動ける方
- ・「できる人」じゃなくて「やりたい人」
- ・移住、遠方から来た人⇒まき込めばすごい戦力に！
- ・各種団体を調整する（事務局を担う）人材

【その他】

- ・商工会の事務の方（地域の人）補助金などお金の工面で
- ・ボランティアではなく、しっかりと給料を支払う
- ・地域で育ててまかせる
- ・各種団体の事務をサポートする人材
- ・リーダーによる

『テーマ⑤ 広域コミュニティが活動するために必要な行政支援と市職員の役割について』

【財政支援】

- ・地域活性化の為にイベント活動費の助成（大会の賞金）
- ・企業での地域活性化するための助成金
- ・惰性で使っている費用を見直して、広域コミュニティが運営できるように
- ・お金（出し方、ルール）
- ・市の方も地域コミュニティに予算をつける
- ・補助金の見直し
- ・自治会活動へ補助金等を出すべきである、活性化
- ・補助金出しやすくしてほしい
- ・補助金手続きの簡素化
- ・地域の活動を評価し、ボランティアではなく地域へお金を交付する
- ・地域コミュニティへの予算措置
- ・話し合いの場に対する行政の補助
- ・情報、経済的支援
- ・地域予算の拠出

『地域からの提案や地域の実情・事業に応じた財政支援』

- ・地域からの提案事業に対する予算枠を
- ・補助金は事業評価に合わせて交付する
- ・地域のボランティア、努力を評価し活動に対する経費に対し補助金を交付
- ・地域のニーズに基づく予算を！
- ・一律ではなく地域に合ったお金
- ・地域の実情に応じた（合わせた）補助金の制度に
- ・本当に地域にとって必要な所に支援（補助金）を

『地域にとって自由度の高い財政支援』

- ・補助金に地域の裁量を

- ・地域で何にでも使えるお金の支出
- ・公民館一括予算へ
- ・補助金活動費に懇親会費含んで
- ・もっと地域が使いやすい補助金制度に

【人的支援・人材育成支援】

- ・コーディネーター、先生
- ・人材派遣
- ・行政職員への派遣要請
- ・市の職員を公民館へ配置する
- ・人材への財政支援⇒コミュニティ支援地域づくり人材を公民館へ
- ・地域づくりのためのリーダー育成教育

【行政によるコーディネート及びサポート】

- ・学校、地域と行政と企業のコーディネート
- ・地域と県・国とのつなぎ役
- ・オリジナル商品、地域商品の開発などのサポート
- ・継続した地域へのサポート意識

【地域活動への市職員の参加】

- ・市職員も校区のコミュニティに入り意見交換会をする
- ・市職員の校区会をつくり必ず地域活動に参加する
- ・色んな分野の勉強をしてきて地域に発信、地元でも率先して活躍
- ・地域の行事に積極的に参加

【市職員の意識改革の必要性】

- ・市職員全員参加で地域づくりを定期的に考える会
- ・市職員の人全員にも広域コミュニティ、シティプロモーション、シビックプライドなどを共有してほしい
- ・言葉、考え方を共有してほしい
- ・人によるバラつきを少なくして下さい
- ・笑顔が少ない（人、部署）がいる
- ・心配り、心配り
- ・前向きな考え方を持つ
- ・「できない！」ですませないでほしい
- ・責任を果たすこと

- ・遠慮せずにひっぱっていい（情熱をもって）３年ほど？
- ・職員の意識を変えて下さい。上を向いて仕事をしない！
- ・地域の主となって取り組んでくれる丹原地区の若手公務員には感謝！
- ・考え方を柔軟に
- ・タテ割り行政を解消すべき（意識改革が必要）

議題（３）その他

委員長	他にないか。 ないようなので、以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	— 事務連絡 —
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」